

おわりに

—┘

ある社会が
その構成員のいくらかの人々を閉め出すような場合
それは弱くもろい社会ある

┘—

これは、1979年の国際障害者年行動計画の一文です。

この歴史的課題の解決がなされないまま、30余年を経た今、日本では、社会
保障・社会福祉をはじめとする制度のほころびが各方面から指摘され、「無縁社
会」と称されるまでになっています。

「推進会議」と「部会」は、「障害の有無にかかわらず国民が分け隔てられる
ことのない共生社会」の実現とそのための制度改革を目指しています。それは、
とりもなおさず、「弱くもろい社会」から、一人ひとりの存在が心より大切にさ
れ、誰もが排除されることなく全ての人が社会的に包摂される、本当に豊かな
社会づくりに寄与するものであると確信しています。

地震と津波、原発事故によって未曾有の被害がもたらされた東日本大震災は、
障害者を含む被災地の人たちにきわめて大きな困難を与えています。被災され
た皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

今、日本中が協力して災害からの新生・復興をすすめ、すべての人が尊重さ
れ、安心して暮らせる社会を作ろうとしています。本骨格提言がめざす共生社
会は、この新生・復興の日本社会の不可欠の一部となると信じます。障害者が
その人らしく働いたり、社会活動しながら、暮らせるしやすい社会はすべての
人が暮らしやすい社会でもあります。

そうした点からも、政府が本骨格提言を受け止め、障害者総合福祉法が制定・
実施されることを心より願うものです。